

## 三溪園 横浜で江戸時代の夢の跡

テレーズ・ノラン (フランス サン＝カンタン出身)

今回、私が紹介したい場所が横浜市中区にある三溪園という和風庭園だ。神奈川のどこの場所を紹介しようと考え始めたときにこの庭園がすごく目についた。こういう都会の中にある自然があふれてくる伝統的な庭園はとても魅力的だったので選んだ。

三溪園は明治39年(1906年)に初めて公開された約175,000m<sup>2</sup>の広い庭園である。三溪園には日本の様々なところから(京都府・和歌山県・神奈川県・岐阜県・東京)移動された重要文化財建造物10件12棟があって横



浜市指定有形文化財建造物3棟を含めて15棟の建築物になる。そこで様々な伝統的な和風の景色が見られる。植物がとても多くて、深く庭園の中を歩き続けるとまるで森のようなところに入っている感覚がする。それに加えて自然だけではなく人間の作ったたくさんのお寺も訪れることができる。そして、最も印象に残るのは庭園の真ん中にある大池だ。この池の上に作られた道のおかげで感動的な景色が見られる。特に坂の上にある

きゅうとうみやうでらさんじゅうのとう  
旧燈明寺三重塔が見られて天気の良い日にそのお寺の影が水

に映って美しい。毎年春には三溪園の桜が咲いて花見をしに来る家族やカップルがとても多い。

### 歴史

明治初年(1868年)、原善三郎(三溪園の創造者の養祖父)は、三溪園一帯の土地を購入した。1906年、製糸・生糸貿でお金持ちになる原三溪(本名 原富太郎)は 三溪園を公開した。1939年、庭園を創造した人が亡くなった。2007年、国指定名勝となった。

### インタビュー

公園を歩きながら色々な方とおしゃべり出来てその中の3人の答えをまとめた。

Q: こちらの三溪園であなたにとって何が一番魅力的ですか。

日本人のカップル: 「やはり雰囲気ですね。ここにきて関東にいる感覚が全くないです。なんか江戸時代に残された庭の感じです(笑)。

中国人の女性二人: 「どうだろう・・・全部が魅力的ですから一つを選ぶのが難しい。うーん、秋の色かな。モミジがすごくきれい。桜色より好きかも。」

フランス人の男性とその子供: 「全く違う文化にいる感覚です。東京では日本にいたことが間違いないけど他の都会と似ている。こういう場所だとやはり日本だねとすごく感じる。」

### 留学生の視点からの提案

とてもいい場所だと思う。デートや家族との散歩、またはリラックスするため利用できる場所だ。ただインタビューを受けていただいた方々がおっしゃったとおり、入園料(大人(高校生以上)700円)が少し高い。すごくいい観光地になるポテンシャルがあるので、300円になれば理想的だと思う。そしてもうちょっとわかりやすいルート。ここに来るため電車一回乗り換えてまたバスを乗らなければいけない。とてもきれいな場所なのでもっと人が来てほしい。ガイドは日本語だけではなく英語または中国語・韓国語にもある。フランス語にも翻訳すればいいと思う。おすすめだ。

### 参考資料情報

公式案内図 [https://www.sankeien.or.jp/pdf/guidemap\\_japanese.pdf](https://www.sankeien.or.jp/pdf/guidemap_japanese.pdf)

公式サイト <https://www.sankeien.or.jp/history/index.html>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E6%BA%AA%E5%9C%92>